

わだ じゅん  
【大賞】 和田 潤

拝啓 おふくろ様。

おふくろ、知ってるか。俺が学校で「ガイジンのくせに」ってバカにされていたこと。それは無理もない。おふくろはアメリカ人なのに俺は英語が話せない。

runを「ルン」と呼んだ時は皆に笑われた。恥ずかしかった。本当に。顔から湯気が出るほど。

だけど何より悔やまれるのは6歳の時におふくろが亡くなったこと。その寂しさから俺はたびたび親父と衝突した。遠足の焦げた卵焼き。母親参観日の無精ひげ。

綱引きでのギックリ腰。親父のせいで恥ずかしい思いもしたし、おふくろのせいで切ない思いもした。

でも親父はおふくろのいない寂しさをどうにか埋めようと必死だった。

俺たちはケンカもしたけど、最後は抱き合って泣いた。おふくろの遺影を前に、悔しくて、恋しくて、泣いた。いま思えば俺たちの心にはいつもおふくろがいた。

今年で60回目の命日。何だか泣きそうになるけど遺影の笑顔がそれを許さないだろう。

話したかったな、もっと……………。

できることなら、ずっと……………。

戻れ、時間。湧くな、寂しさ。

こらえろ、涙。笑えよ、俺。

そろそろ俺も古希になる。もう歳だ。そう遠くないうちにそちらへ行くだろう。

いま少し英会話を習っている。今さらだなんて笑わないで欲しい。

だって、I love や Thank の続きは自分で言いたいから。

大切な、おふくろに。

(東京都/66歳/男性/会社員)

大賞を受賞し嬉しかったです。母への恩返しになったと思います。伝えられない母にだからこそ、何とかして想いを残したいと思い、母に伝わってくれたらいいなと、手紙を書きました。